

## 第19回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時:2024年 3月11日(月)13:00~15:00

2. 場所:Microsoft Teams会議/JAXA東京事務所会議室(B101,B102,B103)

### 3. 出席者

(1)委員:永井委員長、山本副委員長、浅島委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員

(2)JAXA/事務局:佐々木宏、小川志保、白川正輝、芝大、加藤充康、小林裕希、中西雄太 他

### 4. 議事要旨

「きぼう」利用戦略第4版案について、各委員の専門性の観点から議論を深めて頂いた。本結果を踏まえ制定に向け改訂作業を進めることが了解された。主な議論、ご意見は以下のとおり。

#### (1)ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

国内外の低軌道活動の動向について報告した。宇宙戦略基金のJAXA関与度合、テーマ応募時の提案者の提案自由度に関する質問があり、JAXAの立ち位置や具体的な課題の明示が重要であるとのご意見があった。また、今後の予算案については、月・火星の有人活動に向け、宇宙医学の重要性が高まる点を示すべき等のご意見があった。

#### (2)「きぼう」利用テーマ募集状況(報告)

船内及び船外利用のテーマ募集状況を報告した。船内利用テーマ募集に対し新規応募者が多いのは良い傾向で、新しい母集団を作る事の重要性についてご意見があった。船外利用は、「きぼう」の今後を拓く観点で大きなポテンシャルであり、民間企業に橋渡しする取り組みや発掘する努力の継続について要望があった。利用拡大には海外動向を含めたニーズ調査や企業経営層を含めたヒヤリング、募集するだけでなく発掘が有効とのご意見や、軌道上実験実施後の成果検証が重要であり、実際に有望であったか、革新性等を含めた評価や報告が必要とのご指摘があった。

#### (3)第4版「きぼう」利用戦略について(討議)

事前に各委員から頂いたコメントへの対応、及びそれを踏まえた「きぼう」利用戦略第4版の修正案を説明し、以下のご質問、ご意見を頂いた。

- 本戦略の対象範囲に今後のアルテミス計画も含まれるのかの質問に対し、スコープはあくまでも「きぼう」/ISS 利用であるが、将来を見据えた目標にはアルテミス計画を含むと回答。
- 商業活動利用(研究開発等を除く)の JAXA 支援については、支援範囲の判断基準を持つべきとのご意見があった。有償利用の推進のためリソースを 1/3 程度までに増やす利用戦略に基づき、ISS 初期に比べ積極的に推進しているが需要が期待ほど多くない状況。CM 等に関しては NASA/ESA とともに課題を共有し議論中との回答。
- オープンイノベーションとは、「きぼう」利用による研究/開発の成果を社会実装にまでに繋げることであり、純粋な商業活動利用と区別するべき。将来に向け利用環境を提供する“投資”と位置付け、スタートアップ等の企業に積極的に利用してもらうことが非常に重要である。課題特定、優先順位付け等も必要とのご意見があった。

#### (4)米国の低軌道科学研究(生命科学・物質物理科学)の推移と日本の進め方(報告)

米国の低軌道利用の基礎研究や公募推移等、今後の利用公募の進め方を報告した。今後の進め方の判断材料としては、予算と学術論文数等成果の推移に関する情報を準備すべきとのご指摘があった。NASAとの対比におけるフラグシップ採択テーマの分類分けは、PIと情報共有して推進されたいとのご意見、国民への成果還元においては人文社会科学分野も重要であるとのご意見があった。

#### (5)きぼう利用のプロモーション活動について(報告)

今年度の利用開拓活動やISS「きぼう」利用シンポジウム2024の開催結果等を報告した。

以上